

編 修 趣 意 書 (教育基本法と対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—74	中学校	社会科	地理	1・2 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地理—727	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土		

1 編修の趣旨及び留意点

▶ “新しい社会を生み出す創造力”をめざして

現在の社会はグローバル化・情報化・少子高齢化など、様々な変化が急速に進んでおり、中学生が身につけるべき知識や教養も変化しています。私たちは、中学生が優れた日本の伝統をしっかりと継承できるように配慮しつつ、社会の変化をしっかりと踏まえた学習が可能になるよう意を注ぎました。

その上で私たちは今回の教科書の編修にあたって、これからの社会を生きていく中学生に対し、“新しい社会を生み出す創造力”を身につけ、「公共の精神」を尊びながら主体的に社会の形成に参画する人間になってほしいと考えました。将来において、社会に対する安心感をいざなぎながら平和な生活を持続していくためには、現在の社会の成り立ちやしくみを知るだけでなく、新しい社会に合わせたしくみやモデルを創り上げていく能力が必要です。その“創造力”を育成することができるよう、私たちは以下のような点に留意して教科書を編修いたしました。

社会科の編修方針

- ① 社会のしくみや現状など、社会科の基礎・基本がしっかりと身につく教科書に
- ② 社会を形成する人々の様々な工夫や努力が見える教科書に
- ③ 現代社会の諸課題と、その解決に向けての取り組みが見える教科書に
- ④ 人々が作り上げてきた世界や日本の各地にある様々な文化が認識できる教科書に
- ⑤ 様々な考えをもつ人々と共生していくことの大切さを伝える教科書に
- ⑥ 新しい社会の形成に参画していくことの大切さを伝える教科書に

2 編修の基本方針（教育基本法 第2条 への対応）

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うこと」について、本書では日本の国土や世界の諸地域における自然環境や人口、産業などの理解を深めることと捉えました。

- ① 国土理解のために、日本全体の自然環境や人口、産業について最新の状況をふまえて記述し、世界の中における日本の特色を捉えられるようにしました。
- ② 「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元では、地理の基礎的・基本的知識である自然環境や生活・文化、産業など、中核となる地理的事象を考慮しつつ体系立てて記述することで、地域の特色について理解を深められるようにしました。

例 p.184～193 中国・四国地方

地域を学習する上で基礎・基本となる地形や気候について、古くからの重要な交通路である瀬戸内海や、雨が少なく瀬戸内での農業の工夫といった、人々の生活と関連づけながらとらえられるようにしました。さらに、他地域との結びつきの中で変化してきた工業や農業、観光業の視点を示すことで、地域の現状に正対し、理解が深められるようにしました。

- ③ 各見開きでは、学習の導入として生徒の興味・関心をひく資料と学習でおさえるべき課題「学習課題」を示し、学習のまとめとして学習内容の確認をする「確認しよう」や、知識を整理する言語活動を促す「説明しよう」を設けることで、自ら考察できる力を身につけられるようにしました。▶ p.2～3, 132～133, 170～171 など

- ④「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元の最後には、これまでの学習をふりかえり、その地域の基礎的・基本的な知識を確認し、整理する作業ページ「学習をふりかえろう」を設けました。▶p.48~49, 181, 195 など
- ⑤学習内容に合わせて「技能をみがく」のコーナーを全25箇所設け、地理の基礎的・基本的な技能を身につけられるようにしました。▶p.7「地図帳の統計資料の使い方」、15「写真の読み取り方①」、113「統計資料のグラフ化」、123「時差の求め方」など

▶「豊かな情操と道徳心を培う」ことについて、本書では本文や写真資料などで日本や世界の各地で生活する人々の営みについて理解することと捉えました。

- ①本書全体を通し、写真を多用し、かつ大きく見せることで各地域に対する臨場感をもたせ、本文をより良く理解させることに力を入れました。また、人々の姿が見える写真を入れることにも力を入れました。
- ②世界各地の「生活と環境」を扱うページでは、独自取材の成果を本文や写真に生かし、「衣」「食」「住」の観点から世界の多様な文化や人々の姿を扱い、独自取材で得られた情報を写真や本文に生かしながら、その地域に訪れたかのような臨場感をもって描くことで、生活・文化への理解を深められるようにしました。▶p.18~19「暑い地域の暮らし」、20~21「乾燥した地域の暮らし」、22~23「温暖な地域の暮らし」など

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

▶「個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う」ことについて、本書では本文や写真などの資料から地域の特色を読み取り、自分なりに解釈できる力を身に付けることと捉えました。

- ①「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元では、各地域の冒頭に、生徒になじみのある有名な観光地や、地域の文化や産業などに関する写真を大きく掲載した導入写真ページを設け、興味や関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、これから学習する地域がどのようなところなのか、イメージをもてるようにしました。▶p.34~35, 88~89, 168~169, 224~225 など

例 p.88~89 南アメリカ州
サッカーで知られるブラジルや、遺跡が観光地になっているペルー、日本にも輸出されるバナナの産地であるエクアドルなどの写真を掲載したページを州の学習のはじめに設け、少しでも生徒と関連のある題材を提示することで、生徒自らが南アメリカ州について想像できるようにしました。



- ②「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元では、各見開きの導入に地域の姿が読み取れる写真を掲載し、興味や関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、地域の特色を写真からも理解できるようにしました。▶p.46, 84, 92, 232 など
- ③習得した知識や技能を活用して課題に取り組む「トライアル地理」を2箇所設けました。学習内容を深め、自分の考えをまとめることによって、生徒の自主性や創造性を伸ばせるよう配慮しました。▶p.148「ハザードマップを使ってみよう」、265「観光ルートマップをつくってみよう」

▶「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」ことについて、本書では日本や世界の各地に暮らす人々が生活や仕事に対して工夫や努力をしていることを理解し、自身の勤労への意欲を高めることと捉えました。

- ①生活をより豊かにするための工夫や努力を行う人々の姿が読み取れる写真を掲載したり、現地で暮らす人の生活や仕事に関する具体的なエピソードを紹介する「声」やコラムを紹介したりしました。これにより、仕事のやりがいや苦勞に気づくとともに、人々の工夫や努力の結果、今の姿があることを理解できるようにしました。▶p.70「輸出用につくられる農産物」、191「大都市と結びつく高知平野の野菜栽培」、250「現代の生活に合わせて進化する伝統的工芸品」など

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

「正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる」ことについて、本書では相手の考えを理解し、ともに協力することの大切さを知ることと捉えました。

- ①未来の社会をつくるために参考になる取り組みとして、「羅針盤マーク」のコラムを各所に設けました。少子化・高齢化や経済格差の問題、環境保全や防災への取り組みなどを、現代及び将来の社会が直面する課題として捉え、責任感をもって取り組めるようにしました。▶ p.57「少子高齢社会の問題に直面するデンマーク」、71「フェアトレードの取り組み」、86「地球温暖化の影響と対策」、213「富士山の噴火や地震に備えて」など

例 p.213 富士山の噴火
や地震に備えて

富士山の噴火や地震に備えた
地元での取り組みを、災害時の
課題とともに紹介しました。

防災 富士山の噴火や地震に備えて

富士山の周辺では、国や県、市町村が協力した防災の取り組みが進められています。富士山が噴火した場合、火山灰が降り積もることによって住宅がこわれ、避難をせまられる住民は40万人以上といわれています。富士山は、2013年に世界遺産(→p.6)に登録されたので、今後ますます観光客が増えることも予想されています。このため、噴火や地震が発生したときに、住民とともにどのように観光客を避難させるかが大きな課題となっていて、観光施設などと協力した大規模な避難訓練が、地元の消防団や自衛隊なども参加して行われています。



◎富士山の噴火を想定した避難訓練で自衛隊の車に乗る子どもたち(静岡県、富士市、2013年撮影)

「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う」ことについて、本書では地域の特色と課題を理解し、地域をより良くしようとする事と捉えました。

- ①「身近な地域の調査」では、生徒が暮らす地域をより良くするために、地域の課題や将来像について主体的に考えさせるよう配慮しました。▶ p.274

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」ことについて、本書では日本や世界の自然や環境について学び、良い環境を維持していくことの大さを知ることと捉えました。

- ①世界や日本の自然への興味・関心をもってもらうために、「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元のはじめに各地域の地形・気候について学習する「自然環境」のページを設けました。▶ p.36~37, 184~185 など
- ②自然と人間社会との共生を考えさせるために、環境問題や環境保全に関する事例を数多く取り上げました。
▶ p.41 中国の大気汚染と水質汚濁, 96~97 ブラジルでの熱帯林の破壊や保全の取り組み, 157 持続可能な社会の実現への取り組み, 180 北九州市での環境保全への取り組み, 193 砂丘地での農業や緑化の取り組み, 200~207 琵琶湖の保全や環境に配慮した工業、歴史的景観の保全、森林保全や水産資源保護, 263 生態系の保全と観光の両立をめざしたエコツーリズムの取り組み など

例 p.86 地球温暖化の影響と対策

氷河の縮小や気温の上昇といった地球温暖化の現状と人々の生活への影響、地球温暖化の原因を理解させるとともに、温室効果ガスの排出を減らすための各国の取り組みについて、裏付けとなる資料とともに丁寧に説明しました。



第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことについて、本書では日本で育まれた伝統や文化を将来へ継承することの大さを理解することと捉えました。

- ①教科書全体の導入として、「世界に広がる日本の文化と技術」を紹介するとともに「日本の中で進む国際化」も紹介し、日本で育まれた文化が世界に広く受けとめられている現状を理解できるようにしました。▶ 巻頭1~3
- ②「日本の諸地域」の単元を中心に、日本の伝統や文化の事例を数多く取り上げ、地域で受け継がれている伝統

や文化について興味や関心をもってもらえるように配慮しました。▶ p.179 琉球王国時代の史跡や伝統的工芸品, 192~193 山陰の文化財や史跡, 204~205 奈良・京都の文化財や歴史的景観, 248~249 東北地方の祭りや伝統行事 など

- ③「日本の諸地域」の單元には、各地方の最後に「地域を探ろう」を設け、その地域を多面的・多角的に捉えて紹介することで、自分の地域にひきつけて考えられるようにしました。▶ p.180「公害の経験を生かした環境保全への取り組み」, 194「過疎地域での地域おこしの取り組み」, 208「伝統的な地場産業から先端技術産業まで」など

例 p.208 伝統的な地場産業から先端技術産業まで

長い歴史をもつ京都では、さまざまな地場産業が育ってきた一方で、先端技術産業の分野でも国内の重要な拠点の一つとなっていることを、新しい技術者を育成するための課題や取り組みなどの具体例を踏まえて丁寧に紹介しました。



- ④「領土」については、日本の領域とともに、図や写真を用いて丁寧に説明し、平和的な解決方法を考えるために必要な基礎・基本となる知識を習得できるようにしました。▶ p.124~127

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭 1~3 世界に広がる日本の文化と技術/日本の中で進む国際化	世界の中で日本の文化や技術が広まっている事例及び、日本にも外国から文化やボランティアで訪れる人がたくさんいることを紹介しました。 第5号	巻頭1~3
第1部 第1章 世界の姿	世界を理解するための、最も基礎的・基本的な地球上の位置や国について、図版や写真を用いてわかりやすく解説しました。 第1号 生徒が学習でつまづくことのないよう、図版・写真を用いて、丁寧に地理の技能の習得を促しました。 第1号	p.2~12 技能をみがく1~4
第1部 第2章 世界各地の人々の生活と環境	生活の基本的な要素である「衣」「食」「住」を元に、世界のさまざまな地域にどのような暮らしぶりがあるのかを紹介することで、世界の人々の生活の特色を理解できるようにしました。 第1号 第5号 世界各地で信仰されている宗教が人々の生活とどのように関わっているかを紹介し、宗教の分布や宗教による生活の違いを理解できるようにしました。 第5号 生徒が学習でつまづくことのないよう、図版・写真を用いて、丁寧に地理の技能の習得を促しました。 第1号	p.14~29 p.30~31 技能をみがく5~10
第1部 第3章 世界の諸地域	基本的・基本的な知識を習得するために、州ごとに「自然環境→生活・文化・歴史→テーマに沿った学習」という構成にすることで、地域への理解を深めやすくとともに、自然への興味・関心を高めるようにしました。 第1号 第4号 第5号 各州の冒頭には写真を中心にしたページを設け、興味や関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、これから学習する地域がどのようなところなのか、イメージをもてるようにしました。 第2号 生活をより豊かにするために工夫や努力する人々の姿が読み取れる写真を掲載したり、エピソードを「声」やコラムで紹介したりしました。 第2号 世界の自然を大切に、良い環境を維持していくために、環境問題や環境保全の取り組みの事例を紹介しました。 第4号 世界への関心と理解を深めるために、各地の特色や課題を丁寧に説明しました。 第5号	p.36~47, 52~61, 66~72, 76~85, 90~98, 102~108 p.34~35, 50~51, 64~65, 74~75, 88~89, 100~101 p.46, 53, 56, 67, 70, 80, 96, 107 p.41, 86, 96~97 p.33~109
第1部 第4章 世界のさまざまな国や地域の調査	世界の諸地域に対する理解を深め、興味や関心をもって主体的に調査を進められるように、調査テーマの決め方や調査の進め方を丁寧に説明しました。 第1号 調査を進めていく上で必要な地理の技能の習得を促しました。 第1号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるよう、調査結果の発表や意見交換などの場面を設けました。 第3号	p.110~118 技能をみがく11~15 p.110~118
第2部 第1章 日本の姿	日本の国土の位置や領域、地域構成について、図版や写真を用いてわかりやすく説明しました。 第1号 生徒が学習でつまづくことのないよう、図版・写真を用いて、丁寧に地理の技能の習得を促しました。 第1号	p.120~131 技能をみがく16~17

	「領土」については、日本の領域とともに、図や写真を用いて丁寧に説明し、平和的な解決方法を考えるために必要な日本の領土に関する理解を深められるようにしました。 第5号	p.124~127
第2部 第2章 世界と比べた日本の地域的特色	日本の自然環境、人口、資源・エネルギーや産業、地域間の結びつきの特色について、世界的視野から見たり、国内の分布のようすを確認させたりすることで、日本の地域的特色への理解が深まるようにしました。 第1号	p.132~149, 150~153, 154~163, 164~166
	生徒が学習でつまづくことのないよう、図版・写真を用いて、丁寧に地理の技能の習得を促しました。 第1号	技能をみがく18~21
	「自然災害」については、日本で起こる自然災害と、防災に取り組む活動を本文やコラムで説明するとともに、「トライアル地理」でハザードマップの活用を紹介し、地域の事情をふまえて防災を自ら考え、行動を起こせるようにしました。 第2号	p.144~147, 148~149
第2部 第3章 日本の諸地域	資源・エネルギーについて、日本の省エネルギーの取り組みや技術提供を紹介し、環境の保全や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。 第4号 および 第5号	p.156~157
	基本的・基本的な知識を習得するために、地域の基礎・基本となる「自然環境」をどの地方もはじめに学習し、地域への理解を深めやすくするとともに、自然への興味・関心を高めるようにしました。 第1号 第5号	p.170~171, 184~185, 198~199, 212~213, 226~227, 242~243, 256~257
	地域ごとに注目する視点を設け、他の視点とも関連づけながら、各地方にみられる特色（第1次・第2次・第3次産業、都市・人口、結びつきなど）を理解できるようにしました。 第1号	p.172~179, 186~193, 200~207, 214~221, 228~237, 244~251, 258~263
	各地方の冒頭には写真を中心にしたページを設け、これから学習する日本の各地方について生徒がイメージをもてるようにしました。 第2号	p.168~169, 182~183, 196~197, 210~211, 224~225, 240~241, 254~255
	生活をより豊かにするために工夫や努力する人々の姿が読み取れる写真を掲載したり、エピソードを「声」やコラムで紹介したりしました。 第2号	p.167~264
	日本の自然を大切にし、良い環境を維持していくために、環境問題や環境保全の取り組みの事例を紹介しました。 第4号	p.180, 200~207, 215, 263
第2部 第4章 身近な地域の調査	日本の各地で大切にされている伝統や文化を将来へ継承していくことの大切さを理解するために、伝統や文化の事例を多数取り上げました。 第5号	p.179, 192, 204~205, 208, 244~251, 258~259
	身近な地域に対する理解を深め、主体的に調査を進められるように、調査テーマの決め方や調査の進め方を丁寧に説明しました。 第1号	p.266~275
	調査を進めていく上で必要な地理の技能の習得を促しました。 第1号	技能をみがく22~25
	正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度や社会参画の態度を養えるよう、調査結果の発表や意見交換、地域の課題や将来像について考えさせる場面を設けました。 第3号	p.274~275

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① すべてに生徒に読みやすい表現の工夫

- 見開きにおけるデザインや、グラフ・地図などの資料において、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮しました。極力模様などを入れず、配色のみで色が区別できるようにしたほか、折れ線グラフなどは形をはっきりさせるため、線を太くするなどの工夫もしています。これにより、すべての生徒が読み取りやすい表現になっています。
- 本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用しました。

② 環境に優しい素材と堅牢な造本

- 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用しています。一方で写真がきれいに見えるよう、白くて裏映りが少ないものを使用しています。
- インクには国産米の米ぬかからつくられるライスインクを使用しています。
- 使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりをしています。

③ 家庭での自学自習に配慮した点

- 家庭に持ち帰ることを想定し、紙はできるだけ軽いものを使用しています。
- 通常ページには「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」を設置し、予習・復習をやすくしました。また、「学習をふりかえろう」も復習をしやすいよう配慮しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26—74	中学校	社会科	地理	1・2 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地理—727	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土		

1 編修上特に意を用いた点や特色

日本の国土理解と世界の諸地域への理解が深まる教科書

日本と世界の諸地域への理解を深めるとともに、日本や世界のさまざまな地理的事象に対して生徒自らが主体的に関心をもって学習に取り組めるように、以下のような特色をもった教科書を編修しました。

本書の特色

- ① 自然環境や生活・文化、産業など、それぞれの地域の特色が確実に理解できる
- ② 地域の特色を生かした人々の営みや努力が見える
- ③ 現代の諸地域を取りまく動向や課題への取り組みが捉えられる
- ④ 学習を通して読図や作図などの技能が身につく

特色 1 自然環境や生活・文化、産業など、それぞれの地域の特色が確実に理解できる

1 日本と世界の各地域の特色がしっかりと理解できる具体的な展開

第2部第3章「日本の諸地域」と第1部第3章「世界の諸地域」では、各地域において、はじめに「導入写真ページ」、おわりに「学習をふりかえろう」をおきました。通常ページは、基礎・基本となる自然環境の学習から始め、生活・文化、産業などの地域の特色をしっかりとおさえるようにしています。また、丁寧でわかりやすい本文と資料を充実させ、きちんと整理・理解ができるようにしました。

● 第2部第3章「日本の諸地域」 各地方の展開



● 第1部第3章「世界の諸地域」 各州の展開



▲各地域の基礎的・基本的な知識を習得できる構成

① 地域の姿をイメージできる1見開き目（導入写真ページ）

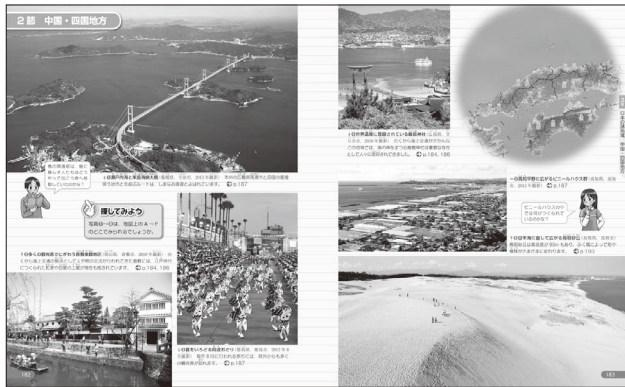
各地域の導入となる1見開き目のページでは、これから学習する地域の姿を写真からイメージできるようにするため、生徒になじみのある有名な観光地や、興味・関心をひく地域の文化、特色ある自然や産業などに関する写真を大きく掲載し、各地域の特色を大観できるようにしました。

② 自然環境の学習を中心とした2見開き目

各地方の2見開き目では「自然環境」を取り上げ、地域を学習する上で基礎・基本となる地形や気候を、人々の生活と関連づけながら捉えられるようにしました。

さらに、「世界の諸地域」では、「自然環境」の次の見開きで「生活・文化・歴史」を取り上げ、人々の暮らしの特色や地域が形成されるまでの背景がわかるようにしました。

1 見開き目(導入写真ページ)の例 (中国・四国地方 ▶ p.182~183)



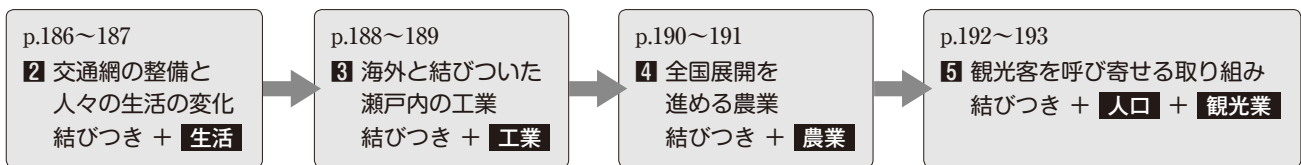
2 見開き目の例 (中国・四国地方 ▶ p.184~185)



③ 注目する視点を設けつつ、他の視点からも地域を学習できる3見開き目以降の構成

各地方の3見開き目以降の動態地誌的な学習を行う「日本の諸地域」では、地域ごとに注目する視点(中核とする地理的事象)を設けるだけでなく、他の視点とも関連づけながら、各地方にみられる地域的特色(第1次・第2次・第3次産業、都市・人口、結びつきなど)を学習できるようにしました。

例) 中国・四国地方 (▶ p.186~193) 注目する視点…他地域との結びつき



▲中国・四国地方を例にした、各見開きにおける視点

なお、日本の諸地域学習において、各地方の中核とする地理的事象は以下のようにしました。

九州地方…自然環境, 中国・四国地方…他地域との結びつき, 近畿地方…環境保全,

中部地方…産業, 関東地方…人口や都市, 東北地方…生活・文化, 北海道地方…歴史的背景

また、「世界の諸地域」では、州ごとに追究するテーマ(主題)を設け、その追究とともに各州の地域的特色(農業や工業、結びつきなど)を学習できるようにしました。このうち、アジア州については範囲が広く、地域によって特色が多様であることから、中国、東南アジア、南アジア、西アジア・中央アジアを取り上げ、1見開きずつ丁寧に学習できるようにしました。

④ 知識を確認する「学習をふりかえろう」

学習の最後には、これまでの学習をふりかえるページを設け、地図や図表を用いて基礎的・基本的な知識を確認させたり、説明させたりすることができるようにしました。

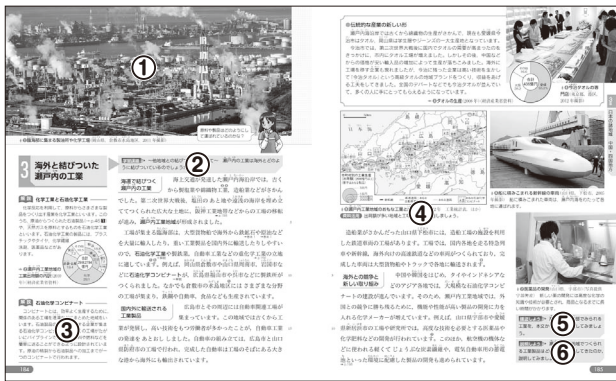
また、「日本の諸地域」では地域で注目する視点(中核とする地理的事象)ごとに、「世界の諸地域」では追究するテーマ(主題)ごとに、もう一度学習内容を整理するようにもしました。

2 基礎的・基本的な知識を深めるための工夫

① 見開きの構成

学習内容への理解をより深めるために、各見開きの紙面の使い方を整理しました。

判型をAB判にして紙面をワイドにすることで、地域の「いま」の姿や背景がわかる本文を充実させ、大きくて見やすい資料を使って学習できるようにしました。



- ① 導入 …………… 生徒の興味・関心を引き出したり、疑問をもたせたりするための写真や資料をおいています。
- ② 学習課題 …… これからの学習でおさえるべき課題を示しています。
- ③ 解説 …………… 本文をより深く理解するための用語の解説を各所においています。
- ④ 資料活用 …… 地理的な見方・考え方を育成するための作業や注目すべき点を提示しています。
- ⑤ 確認しよう …… 基礎的・基本的な知識の確認を行います（習得）。
- ⑥ 説明しよう …… 思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動を行います（活用）。

▲見開き構成の例 (p.188~189)

② 丁寧にわかりやすい本文記述

具体的な地名や、現在の姿に至るまでの背景などを本文に盛り込み、基礎的・基本的な事項が読み取れるように工夫しました。

例えば、シラス台地での畑作と畜産 (p.174~175) では、シラス台地での農業の難しさ、農業ができるようになるまでの経緯を丁寧に説明しました。また、シラス台地の中でもとくに畑作と畜産がさかんな地域を具体的に挙げ、教科書の資料や地図帳で確認できるようにしました。

シラス台地での畑作と畜産 九州南部には、シラスとよばれる古い火山の噴出物によってできた台地が広く分布しています。50~100mにもなるほど厚く積もったシラスは水分を保持しにくいので、昔からシラス台地での農業には大変な苦労がありました。

第二次世界大戦後は、食料を増産するためにシラス台地の開発が進められました。鹿児島県の笠野原では、ダムや農業用水を整備することによって、それまで栽培の中心であったさつまいもに加え、野菜や茶などの収益の多い作物の栽培や、飼料用作物の栽培とあわせた畜産がさかんに行われるようになりました。

③ 学習上で大切な用語を示した「ゴシック」

地理を学習上で大切な用語をゴシック（太字）で示しました。知識の習得を確実なものにするために、ゴシックを従来の284箇所から391箇所に充実させました。

④ 本文をより理解するための「解説」

地理を学習上で大切な用語をわかりやすく説明した「解説」を全59箇所設けました。

例えば、「干拓と埋め立て」(p.135)のように文章だけでは理解しづらい用語については、図や写真を用いて、より理解が深まるように工夫しました。

▼解説の例 (p.135)

解説 干拓と埋め立て

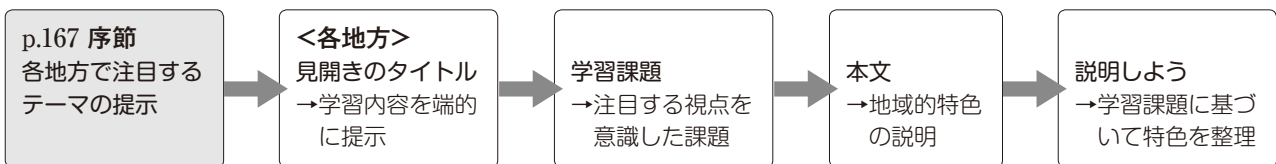
堤防を築き、内部の水を排水して陸地をつくることを干拓といい、川や海などに土砂を入れて埋め、陸地にすることを埋め立てといいます。

↑ 干拓と埋め立て

3 第2部第3章「日本の諸地域」における中核となる地理的事象の考察

「日本の諸地域」における地域的特色を学習するページでは、それぞれの地方で注目する視点（中核となる地理的事象）を「学習課題」に示し、その視点から見た地域的特色について自分の言葉で表現させる作業を「説明しよう」で行えるようにしました。また、各見開きのタイトルは、学習項目だけでなく、それぞれの視点も意識したものにしました。

各地方で注目する視点や学習の進め方は、p.167「序節 日本の諸地域を学ぶにあたって」に示し、各地方をどのように学習していくのかがわかるように配慮しました。



▲本書における、中核となる地理的事象の捉え方

「世界の諸地域」では、各州の地域的特色や課題が明確となり、かつ日本の国土理解を深めることにも結びつくよう、適切な追究テーマ（主題）を設定しました。

各州で注目するテーマや学習の進め方は、p.33「序節 世界の諸地域を学ぶにあたって」に示し、各州をどのように学習していくのかがわかるように配慮しました。

特色2 地域の特徴を生かした人々の営みや努力が見える

1 地域の特徴がわかる本文記述

日本や世界の地域による違いやその地域ならではの特色がわかるようにしつつ同じ説明を繰り返さないように、本文の記述内容を工夫しました。例えば日本の稲作では同じ稲作を扱うにしても、温暖な気候を生かした九州地方の二毛作(▶p.175)、雪が多い北陸での単作(▶p.220)、寒い夏を克服してきた東北地方の米づくり(▶p.244)のように、それぞれの地域の特徴が明確に現れる本文記述にしています。

▼「声」の例(▶p.246)

2 「声」コーナー

日本や世界の各地において、現地で暮らす人の生活や仕事に関する具体的なエピソードを紹介するコーナーを世界の各州と日本の各地方を中心に全15箇所設け、人々の姿や営み、地域の伝統や文化などが見えるようにしました。

例えば、東北地方の果樹栽培を取り上げたページには「さくらんぼ農家の話」(▶p.246)を掲載し、本文だけでは伝えることが難しい、栽培の工夫や農家の取り組みを臨場感のある記述で紹介し、学習内容をさらに深めることができました。

声 さくらんぼ農家の話

さくらんぼの栽培は、冬の雪おろしや枝切り作業から始まって、春になって花がさくと授粉作業を行うんだ。6~7月にかけてが収穫期で、この時期は早朝から収穫作業を始めて、一つ一つぶいていねいに箱づめするんだよ。箱づめしたさくらんぼは、地元の農協に出荷するほか、直接注文してくれるお客さんにも販売して、東京をはじめ全国各地へ届けるんだ。観光農園も開いていて、観光客の人たちにさくらんぼ狩りを楽しんでもらっているよ。



3 人々の暮らしの“いま”が見えるビジュアルな紙面と写真

各地域の伝統的な暮らしと“いま”の暮らしについて、現地のようにイメージできる写真を豊富に用いて、衣・食・住の視点から、地域を捉えることができました。また、独自の取材を行うことで撮影した写真を掲載し、地域の暮らしぶりを生き生きと映し出せるようにしました。

取材による写真掲載ページ

p.15 ⑤「シベリアの市場」、19 ⑥「家庭での食事のようす」、20 ①「乾燥した地域でのらくだの遊牧」、45 ⑦「衣類をつくる工場」、96 ①「熱帯林を切りひらいてつくられた製材所」など約90点が自社撮影写真



▲暑い地域の暮らしを取り上げた例(▶p.18~19)

特色3 現代の諸地域を取りまく動向や課題への取り組みが捉えられる

1 「羅針盤マーク」のコラム

未来の社会をつくるために参考になる取り組みや解決への取り組みを紹介した、「共生」「環境」「防災」の三つのテーマからなるコラムを全22箇所設けました。例えば中部地方の「富士山の噴火や地震に備えて」(▶p.213)では、防災への取り組みの例として消防団や自衛隊の協力にも触れました。

▼「羅針盤マーク」のコラムの例(▶p.213)

防災 富士山の噴火や地震に備えて

富士山の周辺では、国や県、市町村が協力した防災の取り組みが進められています。富士山が噴火した場合、火山灰が降り積もることによって住宅がこわれ、避難をせまられる住民は40万人以上といわれています。富士山は、2013年に世界遺産(→p.6)に登録されたので、今後ますます観光客が増えることも予想されています。このため、噴火や地震が発生したときに、住民とともにどのように観光客を避難させるかが大きな課題となっていて、観光施設などと協力した大規模な避難訓練が、地元消防団や自衛隊なども参加して行われています。

④富士山の噴火を想定した避難訓練で自衛隊の車に乗る子どもたち(静岡県、富士市、2013年撮影)

2 領土をめぐる問題

日本の領土や領域について、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記するとともに、その位置を図や写真を用いて丁寧に説明し、日本の領域内にみられる問題を事実に基づいてわかりやすく説明しました(▶p.124~127)。

特色4 学習を通して読図や作図などの技能が身につく

1 「技能をみがく」と「やってみよう」

学習内容に合わせて「技能をみがく」を全25箇所設け、地理の学習に必要な読図や作図などの技能を習得できるようにしました。このほか、各所に「やってみよう」を設け、小学校で学習した内容の確認や技能に関する具体的な作業を通して、知識や技能を確実に身につけられるようにしました。

2 対照表

単元構成	箇所	学習指導要領の内容	構成・内容の特色	配当 時数
第1部 世界のさまざまな地域		(1)		46
第1章 世界の姿	p.2 } 13	(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 緯度・経度のような抽象的な概念の学習は、章の後半に配置し、前半は写真や図を活用しながら、大陸や世界の国の位置・名称を楽しく学習できるように、配列や資料の提示方法を工夫しました。 各所に地図帳や地球儀の活用を促す作業を設置しました。 	4
第2章 世界各地の人々の生活と環境	p.14 } 32	(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって学習を進められるよう、自然環境の異なる五つの地域を取り上げ、独自取材による写真を掲載し、人々の生活のようすを具体的にみるように展開と構成を工夫しました。 写真やグラフの読み取り方を確実に習得できるように、「技能をみがく」で技能を丁寧に説明しました。 	8
第3章 世界の諸地域	p.33 }	(1) ウ	<ul style="list-style-type: none"> 章の冒頭で、世界の諸地域をどのように学習していくのかを、わかりやすく解説しました。 はじめて学習する世界の諸地域に対して、興味・関心をもって学習にのぞめるよう、各州学習の冒頭には写真を中心とした導入写真ページを設けました。 各州の地域的特色を大まかに捉えられるよう、どの州もはじめに自然環境と生活・文化・歴史を扱い、そのあとでテーマに合わせて地域的特色を追究できるように展開・構成を工夫しました。 	30
序節 世界の諸地域を学ぶにあたって	109			1
1節 アジア州				6
2節 ヨーロッパ州				5
3節 アフリカ州				4
4節 北アメリカ州				5
5節 南アメリカ州				5
6節 オセアニア州			4	
第4章 世界のさまざまな地域の調査	p.110 } 118	(1) エ	<ul style="list-style-type: none"> 調査テーマの決め方、調べる視点の例、調査の手順をわかりやすく示しました。 調査結果をまとめるために参考となる、調査で集めた資料の例、主題図のつくり方、レポートのつくり方、展示発表の仕方を具体的に示しました。 	4
第2部 日本のさまざまな地域		(2)		60
第1章 日本の姿	p.119 } 131	(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 見開きの導入資料には、実感を伴う資料を配置し、親しみをもって学習にのぞめるように配慮しました。 時差学習は、図を用いて丁寧に説明し、作業を通して時差を計算する能力が身につくようにしました。 各所に地図帳の活用を促す作業を設置しました。 	5
第2章 世界と比べた日本の地域的特色	p.132 } 166	(2) イ	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域的特色が理解できるよう、世界の中での日本の位置付けや国内の地域差を本文で丁寧に説明し、その裏付けとなる資料を数多く掲載しました。 自然災害に対する理解を深めるために、自然災害と防災に関する人々の努力を具体的に示し、「トライアル地理」でハザードマップの使い方を丁寧に紹介しました。 資源や産業の特色については、地誌部分との重複を避けるために、厳選した内容にしました。 	14
1節 自然環境の特色			6	
2節 人口の特色			2	
3節 資源や産業の特色			5	
4節 地域間の結びつきの特色			1	
第3章 日本の諸地域	p.167 }	(2) ウ	<ul style="list-style-type: none"> 章の冒頭で、日本の諸地域をどのように学習していくのかを、わかりやすく解説しました。 興味・関心をもって学習にのぞめるよう、各地方学習の冒頭には写真を中心とした導入写真ページを設けました。 どの地方もはじめに自然環境を扱い、地域を学習する上で基礎・基本となる地形や気候を人々の生活と関連づけながらとらえられるようにしました。 地方ごとに注目する視点を設けて、第1次・第2次・第3次産業、都市・人口、結びつきなどの地域的特色を動態地誌的に追究できるようにしました。 	36
序節 日本の諸地域を学ぶにあたって	265			1
1節 九州地方				5
2節 中国・四国地方				5
3節 近畿地方				5
4節 中部地方				5
5節 関東地方				6
6節 東北地方			5	
7節 北海道地方			4	
第4章 身近な地域の調査	p.266 } 275	(2) エ	<ul style="list-style-type: none"> 調査テーマの決め方、調べる視点の例、調査の手順をわかりやすく示しました。 調査結果から地域の課題や将来像を考えさせることで、社会参画の態度を養う工夫をしました。 	5

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-74	中学校	社会科	地理	1・2 学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
46 帝国	地理-727	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
133	どうして日本では地震が多いのだろうか？	2	中学校学習指導要領 地理的分野の内容「(2) 日本の様々な地域」, 大項目「イ 世界と比べた日本の地域的特色」のうち, 小項目「(ア) 自然環境」に該当する事項と関連。
145	地震と津波	2	中学校学習指導要領 地理的分野の内容「(2) 日本の様々な地域」, 大項目「イ 世界と比べた日本の地域的特色」のうち, 小項目「(ア) 自然環境」に該当する事項と関連。

(発展的な学習内容に係わる総ページ数 2 ページ)